

2019年度（第14回）北海道女子ミッドアマチュアゴルフ選手権競技

開催日：2019年9月23日（月）・24日（火）
会 場：御前水ゴルフ倶楽部

本競技は R&A と USGA が承認したゴルフ規則（2019年1月施行）と下記のローカルルールと競技の条件を適用する。下記に参照するローカルルールの全文については2019年1月発効の「ゴルフ規則のオフィシャルガイド」を参照すること（www.jga.or.jp で閲覧可）。

別途規定されている場合を除き、ローカルルールの違反の罰は一般の罰（ストロークプレーでは2罰打）。

ローカルルール

1. アウトオブバウンズ（規則 18.2）

アウトオブバウンズは白杭のコース側を地表レベルで結んだ線によって定められる。

2. ペナルティーエリア（規則 17）

- (a) 片側だけ定められているペナルティーエリアは無限に及ぶ。
- (b) ペナルティーエリアが境界に隣接している場合、そのペナルティーエリアの縁はその境界まで及び、その境界と一致する。
- (c) №12 ホールにあるペナルティーエリアの中に球がある場合（見つかっていない球がそのペナルティーエリアに止まったことが分かっている、または事実上確実である場合を含む）、プレーヤーには次の選択肢があり、それぞれ1罰打で
 - (1) 規則 17.1d に基づく救済を受ける。または
 - (2) 追加の選択肢として、元の球か別の球をドロップゾーンにドロップする。このドロップゾーンは規則 14.3 に基づく救済エリアである。

3. 異常なコース状態（動かさない障害物を含む）（規則 16）

(a) 修理地

- (1) 白線と青杭で標示する。
- (2) 張芝の継ぎ目

プレーヤーの球が張芝の継ぎ目の中にあるか、触れている場合、あるいは継ぎ目がプレーヤーの意図するスイング区域の障害となっている場合、ジェネラルエリアの球は規則 16.1b、パッティンググリーン上の球は規則 16.1d に基づいて救済を受けることができる。

しかし、その継ぎ目がプレーヤーのスタンスにだけ障害となっている場合、障害は存在しない。救済を受けるときは、張芝の区域の中のすべての継ぎ目は同じ継ぎ目として扱われる。そのことは、球をドロップした後どの継ぎ目であってもプレーヤーの障害となる場合、たとえその球が基点から1クラブレンジ以内にある場合でも、そのプレーヤーは規則 14.3c(2)に基づいて要求されるように処置しなければならない。

- (3) パッティンググリーン上、あるいはフェアウェイの長さかそれ以下に刈ったジェネラルエリアの部分にあるヤードージ用にペイントされた線や点は修理地として扱われ、規則 16 に基づく救済を受けることができる。ヤードージ用のペイントがプレーヤーのスタンスにだけ障害となる場合、障害は存在しない。

(b) 動かさない障害物

- (1) 白線の区域と動かさない障害物がつながられている場合、ひとつの異常なコース状態として扱われる。
- (2) U字排水溝はジェネラルエリアの一部として扱われ、ペナルティーエリアではない。（例外：ペナルティーエリアとしてマーキングされている区域の中にある U字排水溝）
- (3) 人工の表面を持つ道路に隣接している U字排水溝はその道路の一部として扱う。
- (4) コース内にある防球ネットによる障害のため、規則 16.1b の救済を受ける場合には、その障害物の上を越えたり、中や下を通さずに完全な救済のニヤレストポイントを決定しなければならない。

4. 不可分な物

次のものは不可分な物であり、罰なしの救済は認められない。

- (a) バンカーの縁の土留め用の構築物。
- (b) 樹木や他の常設物に密着させてあるワイヤ、ケーブル、巻物、その他の物。
- (c) ペナルティーエリア内にある人工的な護岸や枕木等の構築物。

5. 特定の用具の使用制限

- (a) プレーヤーが使用するドライバーは R&A が発行する最新の適合ドライバーヘッドリストに掲載されているクラブヘッドを持つものでなければならない。このローカルルールの違反の罰は失格。
- (b) プレーヤーは 2010 年 1 月 1 日に施行された用具規則の溝とパンチマークの仕様に適合するクラブを使わなければならない。このローカルルールの違反の罰は失格。
- (c) プレーヤーが使用する球は R&A が発行する最新の適合球リストに掲載されているものでなければならない。このローカルルールの違反の罰は失格。

6. プレーの中断・プレーの再開（規則 5.7）

次の信号がプレーの中断と再開に使われる

差し迫った危険のための即時中断 - 1 回の長いサイレン

危険な状況ではない中断 - 断続的なサイレン

プレーの再開 - 1 回の長いサイレン

注：危険な状況のためにプレーを即時中断する場合、すべての練習区域は委員会がプレーを再開するまで閉鎖される。閉鎖された練習場で練習するプレーヤーには練習を止めるように勧告し、それでも練習を止めない場合には失格となることがある。

7. 練習（規則 5.2）

- (a) 規則 5.2b は次の通り修正される

競技の当日、ラウンド前やラウンドとラウンドの間に、プレーヤーは競技コースで練習してはならない。

このローカルルールの違反の罰

最初の違反 - 一般の罰

2 回目の違反 - 失格

例外：プレーヤーは競技日に練習用に用意されているコース内のすべての練習区域を練習のために使うことができる。

- (b) 規則 5.5b は次の通り修正される

2 つのホール間のプレーの間、プレーヤーは次のことをしてはならない

(1) 終了したばかりのパッティンググリーンやその近くで練習ストロークを行う。または、

(2) 終了したばかりのパッティンググリーンの表面をこすったり、球を転がすことによってパッティンググリーン面をテストする。

8. キャディー

規則 10.3a は次の通り修正される

プレーヤーはラウンド中、委員会によって指定された者以外をキャディーとして使用してはならない。

9. 後方線上の救済を受けて、救済エリアの外からプレーした球

後方線上の救済を受ける場合、プレーヤーが関連する規則(16.1c(2), 17.1d(2), 19.2b,19.3b)が要求する救済エリア内に球をドロップしたが、その救済エリアの外に止まった球をプレーした場合、その球をドロップしたときに最初に地面に触れた箇所から 1 クラブレングス以内にその球が止まっているのであれば、追加の罰はない。この罰の免除は、球が基点よりホールに近い所からプレーされていたとしても、元の球の箇所や、球がペナルティーエリアの縁を最後に横切ったと推定した地点よりホールに近づいてプレーしていなければ適用する。

このローカルルールは関連する規則の後方線上の救済に関する処置を変更するものではない。つまり、基点と救済エリアはこのローカルルールによって変更されず、正しい方法で球をドロップし、その球が救済エリアの外に止まったプレーヤーは、それが起きたのが最初のドロップであっても、2 回目のドロップであっても、規則 14.3c(2)を適用することができる。

競技の条件

1. 競技委員会の裁定

競技委員会は競技の条件を修正する権限を有し、すべての事柄について、この委員会の裁定は最終である。

2. スコアカードの提出

プレーヤーのスコアカードは、プレーヤーが所定のスコアリングエリアから出た時点で競技委員会に提出されたことになる。スコアカードを提出する前にスコアリングエリアを離れる必要のあるプレーヤーは委員会にその意思を告げなければならない、そしてすぐに戻らなければならない。

3. タイの決定

タイの決定方法は該当する競技規定に定めるが、使用ホールについては競技委員会によってゴルフコースで公表する。

※マッチングスコアカード：以下の順序により合計スコアを比較し、成績の良いプレーヤーを予選通過者とする。

- ①2 ラウンド以上の競技の場合は最終ラウンドのスコア
- ②最終ラウンドの10番ホール～18番ホールの合計スコア
- ③最終ラウンドの13番ホール～18番ホールの合計スコア
- ④最終ラウンドの16番ホール～18番ホールの合計スコア
- ⑤最終ラウンドの18番ホールのスコア
- ⑥最終ラウンドの4番ホール～9番ホールの合計スコア
- ⑦最終ラウンドの7番ホール～9番ホールの合計スコア
- ⑧最終ラウンドの9番ホールのスコア

上記の方法でも決まらない場合は ⑨委員会によるくじ引き

4. 競技終了時点

競技委員会の作成した成績表が掲示された時点をもって終了とする。

注意事項

1. アマチュア資格規則を遵守すること。不明な点は日本ゴルフ協会ホームページ(www.jga.or.jp)を参照すること。
2. 競技の条件やローカルルールに追加、変更のあるときは、クラブハウス内並びにスターティングホールのティーイングエリア付近に掲示して告示する。
3. **グリーンリーディング資料は、冊子の大きさが17.8cm×10.8cm以下で、冊子上の5ヤードの幅が9.525mm以下の縮尺のものを使用すること。規定外の資料の使用については規則4.3を適用する。**
4. パッティンググリーンに著しく損傷を与えるシューズは使用禁止とすることがある。
5. プレーの進行に留意し、先行組みとの間隔を空けないよう注意すること。プレーの不当な遅延についてはゴルフ規則5.6を適用する。
6. 練習は指定練習場で行い、打球練習場では備付の球を使用し、スタート前の練習は1人200円(30球)を限度とする。
7. 競技委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断したプレーヤーの参加資格を取り消すことがある。
8. **競技委員会は規則1.2に基づき、重大な非行があったプレーヤーを競技失格とすることがある。**

競技委員長 米永 敏裕